

第139回 院内集会

北村 俊郎

1. 世界のエネルギーの現状と将来

- 世界情勢が不安定化 グローバリズム経済からブロック化
- 先進国の没落、紛争勃発、難民大量発生
- 自然災害多発、資源の高騰、食糧難
- 温暖化による脱化石燃料の流れ
- AI急拡大に伴う電力不足の予想

2. 日本が今後取るべきエネルギー政策

- エネルギーの自給自足、シーレーンリスク回避
- 温暖化対策のキャッチアップ、火力に7割依存の現実
- 人口減少、高齢化、経済力低下に耐えるエネルギー供給
- 脱炭素を新たな産業に(洋上風力の国産化、蓄電池など)
- 市場メカニズムが働くような仕組みと弱者の保護

3. 日本として原発は選択肢となり得るか

- 地震津波対策に伴う原発の発電コスト上昇見込み
(新設、再稼動ともに)
- 負の遺産の解消
(福島第一、核燃料サイクル、高レベル、放射性廃棄物)
- 建設準備から発電開始まで何年かかるか、
人材は確保できるのか

4. 再生可能エネルギー拡大を実現するには

- 環境に適合した開発、リサイクルの確立
- 蓄電装置の開発とデマンドコントロールがカギ
- 独自資源である地熱、海洋の開発に注力
- 新電池によるメガソーラービル、大都市近郊のソーラーシェアリング

5. 今、為すべきことは何か

- 国民が判断するための、ごまかさなない正直な数字の開示
- 海外の動向、情報の収集と日本に参考になる事例探し
- 国民的議論。政党や議員によるマニフェスト化
- 閣議決定や多数決乱用による一部の利益優先や拙速の回避
- 一律電気代補助を止めて自給などへ誘導
- 停電や油断を起こさない慎重な移行計画づくり
- 国家予算のバラマキではなく選択と集中
- 負の遺産の公表と解消についての議論